

SSKO

われら 同胞

No.68

目次

- 2P 滝山病院事件1年が経過して・
精神保健福祉講座を終えて
- 3P グループホーム新ユニット
- 4P 賛助会コーナー



『第34回精神保健福祉講座』 3月9日に開催しました！

社会福祉法人万葉の里との共催で毎年実施していた市民講座ですが、新型コロナウイルスの影響で中止してからじつに4年ぶりの開催となりました。「まちで暮らす」を講座のテーマとして滝山病院事件を主旨に置き、講師には滝山病院の被害者支援にあたっている相原啓介弁護士をお迎えしました。たくさんの方にご参加いただき盛況な場となりました。本当にありがとうございました！



滝山病院事件1年が経過して～ソーシャルアクションの重要性～

地域生活支援センタープラッツ 所長 毛塚 和英

令和5年2月に滝山病院の虐待事件が報道されて、一年が過ぎました。5月に東京都が行った転院意向調査は対象者79名の内、39名が希望され、11月までに11名の方が転院されましたが、残念ながら2名の希望者が亡くなっています(希望者以外の入院者は20名亡くなられています)。

こういった「災害級」の事件が起きた劣悪な環境にいる方々の救出というソーシャルアクションを行うため、有志にて「滝山病院へアクセスする会」(以下、アクセスする会)が11月に設立されました。

一年が経過しても変わらない状況は、問題解決に向けた取り組みが行われていないと捉えられる事態です。関係者等が責任回避し、問題の深刻さを認識せずに放置しているのではと世間から見られているはずです。その為、アクセスする会が社会的問題として捉えていくことも踏まえ、要望活動や直接行動も行いましたが無回答・無反応でした。

この一連の出来事は精神障害者の方の人権や尊厳が侵害されている状況です。以前の滝山病院では入院者が適切な治療を受けられていない、尊重されていなかった状態だったのでは、とされています。だからこそ、この無回答という対応は、入院者に対する人権軽視だと、訴え続けていかなければなりません。さらに、この事件は精神障害者の方への偏見や差別が依然として社会側にあることを露にしました。社会全体で精神障害に対する理解を深め、偏見や差別をなくし、希望者は適切な福祉サポートとともに必要な医療を受け、社会参加にもつながるための包括的な支援体制が求められます。変革を行う為のソーシャルアクションが今、必要です。

転院希望を出したにも関わらず、今も虐待のあった病院にいらっしゃる方々のことを想うと、その恐怖心や先の見えない不安感は想像に難くありません。当法人としても「人権擁護」を行う地域支援事業所の矜持を職員一同と確認していき、引き続き滝山病院に対して、活動している団体を通じ、退院促進等への協力をしていく意向を示したいと考えております。

精神保健福祉講座を終えて… 滝山病院事件に思いを巡らせる

さつき共同作業所 所長 作道 康介

法人としてこのことを考えていく。このようなことが起きないために具体的な取り組みをしていく。ではその中で自分自身は、職員一人ひとり、このこととどう向き合い、考えていくのか。

3月9日、市民講座として『まちで暮らす』をテーマに滝山病院事件を主旨に置き、多くの方々にこのことを知ってもらい、考えてもらう機会にと取り組んだ今回の精神保健福祉講座。それを通して私は、一職員として、そして一市民として何を思ったのか。ここでは自身の内面に目を向けて書いてみようと思います。

滝山病院事件。極めて重大なことであると認識しておきながら、それでも私はどこか、遠くで起きていること…そう感じてしまっていたのだと思います(それはおそらく、これまでに起きた重大な事件のときも同様に)。目の前の支援、目の前の方たちの暮らしに結びつけることができず、行動に移す、あるいは行動を変えるところまで考えは及んでいませんでした。ですが今回の講座を通して、この事件は、自分の目の前にあることとつながっているのだと、はっきりと感じました。そして自分の行動が、周囲の行動が、地域の行動が…、時として淀みを生み、しわ寄せを作り、闇をおろすのだと、そう感じました。

被害にあわれている患者さんやそのご家族のことを思う。そのことは私も少なからずやってきたと思います。ですがこれまで自分が「全く理解できない」と感じたままにしていた病院が、そして病院スタッフがどのような思いでいたのか、どのような状況にあったのか。そういったことに思いを巡らせ、考え深めることも、この事件をひも解くためのひとつであり、これからこのようなことが起きないために自分たちができることの一つのようにも思います。

まちで暮らす。それはあまりにも当たり前で、けれど何よりも大切であること。病院でも、私の目の前でも、それはきっと変わらないのでしょう。

ピア国分寺 新ユニットオープン！！

居住支援部部长 中野悟

当法人のグループホームには4つのユニット（ピア国分寺・国分寺コーポ・グリーンハイツ・メビウス）がありますが、この度5つ目のユニットを開設いたします。

部屋は6畳、ユニットバスとキッチンがある単身用のオーソドックスな間取りで、洗濯機置き場は室内にあります。マンションの3Fと4Fを利用しており部屋によってはとてもいい景色が広がっています。国分寺駅から徒歩7～8分、駅の周辺にはお店も多いので生活しやすい環境だと思います。

当法人のグループホームについて改めてお伝えいたします。新ユニット含め全てのユニットが利用期限（2～3年）のある通過型で、利用後はご自身でアパート等を借りてお一人暮らしに移行する方が多いので、そこに向けた支援を提供しています。



外観



天気がよければこんな景色が見られます！



室内

現在、令和6年4月1日のオープンを目指して準備を進めています。定員は4名でのスタートとなりますが増室も検討していますので、ぜひお問合せいただければと思います。

皆様からのご連絡をお待ちしております。

はらからの家福社会賛助会コーナー

はらからの家福社会賛助会は、「社会福祉法人はらからの家福社会」の運営の維持・発展のために支援・協力することを目的として、主に財政的支援・協力の活動を行っています。当会の趣旨にご賛同いただける方の入会をお待ちしております。

会費は年間1口2千円からで何口でも可能です。会員の皆様には「われら同胞(本誌)」を年3回郵送し、活動報告及び会計報告を行っています。

皆様からいただいた会費は、毎年取りまとめて「社会福祉法人はらからの家福社会」に寄付していただき、その一部はピアサポート活動参加メンバーへの活動謝礼金として使わせていただいております。社会福祉法人はらからの家福社会は、地域移行促進のためピアサポーターの皆さんと協働し、病院が実施するプログラムへの参加や地域との情報交流を定期的に行っております。

郵便振替口座番号

00180-8-130179

加入者名：はらからの家福社会賛助会

会費をご納入いただいた方のお名前を本紙に掲載させていただいております。匿名希望の場合はその旨通信欄にお書きください。

<令和5年9月から令和5年11月の間に会費をご納入頂いた皆様(順不同 敬称略)>

中田 有智子 上柳 明子 萩原 久丸 森田 忠雄 伊藤 善尚 山内 慈水
にしの木クリニック 白木建設株式会社 匿名 1名

会員の皆様、いつも本当にありがとうございます。今後ともなにとぞ宜しくお願いいたします。

【編集後記】

春に向かう日々の気温差に、体調のコントロールがむずかしいですね。それでも、春の陽を浴びて、伸びやかに、健やかに、みなさまがお過ごしいただけるよう願っています。

この春も国分寺市社会福祉法人連絡会の活動として、フードドライブに協力しています。様々な活動でみなさまの一助になればと考えています。

これからもどうぞよろしく願いいたします。

われら同胞編集一同

はらからの家福社会ホームページ
<http://harakaranoie.com/>

【編集人】

社会福祉法人はらからの家福社会
〒185-0021
東京都国分寺市南町 3-4-4
TEL 042-323-5637

【発行人】

障害者団体定期刊行物協会
〒157-0072
東京都世田谷区祖師谷 3-1-17-102
【定価】¥120円